SFRR Japan
NEWSLETTER
January 1, 2017

Top News

2017年　酉年
年頭のご挨拶





理事長　豊國　伸哉
（名古屋大学医学系研究科　教授）

新年を迎え、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年より理事長2期目の2年間を務めさせていただくことになりました。昨年1月よりSFRR AsiaのPresident、本年1月からはSFRR InternationalのPresidentも兼任することとなり、より一層日本の、そしてアジア・世界のフリーラジカル・酸化ストレス研究の育成・発展のために尽力する所存であります。今後とも会員の皆様の御協力・御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

さて、日本酸化ストレス学会では、2013年度6月に開催された理事会の承認に基づき、法人化検討委員会を立ち上げて、学会の法人化について調査、検討してまいりました。種々の討議を重ねた結果、2016年8月の理事会において、「日本酸化ストレス学会を法人化すべきである」という結論に達しました。これまでの経緯等詳細につきましては、別途会員の皆様にご報告させていただきますので、ご熟読頂けましたら幸いです。なお、法人化の是非ならびに法人の形態につきましては、来年2017年6月28日開催の2017年度総会にて会員の皆様にお諮りする予定にしております。この場を借り、会員の皆様にご報告するとともに、忌憚なきご意見を2017年理事会までにお寄せいただければと考えております。現在、「法人化準備委員会」を立ち上げ、詳細につき検討を重ねているところです。

今日、フリーラジカル・酸化ストレス研究はいろいろな分野に波及し、ますます裾野を広げている状態にあります。しかし、top journalにおいてさえ、ただROSとのみ記載されており、実際どのような化学種が関わっているのかが明らかにされていない場合もあります。わたしたちの1つの指命はこのような曖昧さを少しでも減らすことにもあるかと思いますので、会員の皆様の努力を期待するところです。今年度もSFRR関連のさまざまな国際会議があります。若手には賞がありますので、是非学生・ポスドクを連れてのご参加をお願いいたします。また、論文の投稿はともかく、査読もサイエンスのなかではたいへん重要な作業ではないでしょうか。スタッフになった若手はどんどん査読にも挑戦していただきたいと思います。今年が会員に皆様の1人1人にとって、新たな飛躍の年になりますよう祈念いたします。

♧　いよいよ法人化に向け始動　♧

これまで日本酸化ストレス学会を含む日本の学会の多くは法人格を持たない任意団体として運営されてきました。しかし、任意団体には、運営方針や責任体制が明確でない、税務処理がなされていない等の問題があり、社会に対するコンプライアンス遵守の観点から、近年多くの学会が法人化に向けて動き出しています。会員数1000人未満である日本酸化ストレス学会にあっても、このまま任意団体として活動を続けることには問題はないのかという認識から、2013年度よりこの問題について議論を行うべく、法人化検討委員会を立ち上げ、法人化の是非について検討を進めてきました。検討を重ねる中では、法人に移行した場合のメリットが明確ではない、費用的なデメリットも増えるなどの懸念も多く、今暫くの状況の静観を続けておりました。3年に亘る検討の中で、社会の情勢も変動し、本学会と同程度あるいはより小規模な任意団体から一般社団法人に移行する学会が徐々に増加しており、オフィシャルジャーナルを保有する本会では、雑誌発刊が軌道に乗るとともに予算規模も増加し、税務上の適正な対応も念頭に、更に法人化検討委員会および理事会でこの問題について検討してきました。専門家の助言を伺う中、任意団体といえどもみなし法人として、法人として同等の責務が求められる可能性もあり、2016年度理事会に於いて、法人化に舵を取る事となりました。今後は、法人化準備委員会を中心に進める事となりましたので、会員各位のご理解とご協力宜しくお願い致します。詳細につきましては、別紙法人化準備委員会からの報告をご参照下さい。

◇◇◇　役員報告　◇◇◇

2016年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

理事長:　豊國伸哉（再任・2期目）
新庶務幹事:半田　修
新名誉会員:井上正康、大澤俊彦
新功労会員:青柳一正、幸村定昭、小嶋仲夫
新理事:　足立哲夫、松井裕史
新評議員:　伊東　健、熊谷嘉人、西田基宏



庶務幹事交代

～　庶務幹事の交代に際して　～　　内藤　裕二
（日本酸化ストレス学会初代庶務幹事）

日本酸化ストレス学会の歴史は、昭和51年8月29日に開催された過酸化脂質研究会に始まるとされている。この研究会を契機に「過酸化脂質研究会」が結成され、日本過酸化脂質学会（八木国夫会頭）へと発展した経緯がある。その後、1987年10月より「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」と改名し、2003年より京都府立医科大学吉川敏一教授が会長の任を執っていた。日本フリーラジカル学会（SFRR Japan）は、国際フリーラジカル学会（Society for Free Radical Research: SFRR）の下部組織としての日本支部として1988年日本で開催された国際フリーラジカル学会を契機として設立されたものである。その後「磁気共鳴医学会」と2001年に合併し、2002年より、京都府立医科大学大学院医学研究科生体機能制御学　吉川敏一教授がその会長の任にあたっていた。小生は長年に渡ってこれらの学会の庶務幹事を務めてきたように思う（確証はない）。2007（平成19）年6月に名古屋で合同開催された日本過酸化脂質・フリーラジカル学会第31回大会ならびに第29回日本フリーラジカル学会学術集会を機に、「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」（1977年設立）と「日本フリーラジカル学会」（1988年設立）が合併、両学会を発展的に解散し、新たに「日本酸化ストレス学会」として発足した。初代庶務幹事として規約上も正式な学会の任についたと記憶している。幸い、本学会は発展し、多くの会員を抱える学会となり、ご協力いただきました多くの会員に深謝申し上げる。今年の理事会、評議員会で庶務幹事を退任し、後任の半田　修先生に引き継ぐことが出来、少し安堵の気持ちです。若い世代に引き継ぐことは、学会を活性化していく上でも必須です。今後とも本学会の発展のために尽力させていただきます。

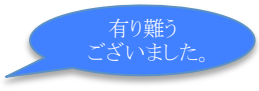


～　新任のご挨拶　～　　半田　修

まずは、庶務幹事として長年本会を支えてこられた内藤裕二先生に改めて感謝の意を表したいと思います。また、若輩者の私を庶務幹事にご推薦頂きました理事・会員の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございます。今回、庶務幹事を仰せつかりましたが、私自身は庶務幹事は歌舞伎でいうところの黒子と考えています。役者である学会員の皆様が支障なく学会活動ができるように陰で支えられるよう頑張りたいと存じます。不慣れですので、どうか、皆様のあたたかいご指導を賜れましたら幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



退任:　功労会員:吉峯　徳
　　評議員:　阿部康二、近藤　隆



～ 2016年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第68回学術集会（2016年8月仙台開催）において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

「2016年度 学会賞 を受賞して」



内藤 裕二（京都府立医科大学准教授）

この度は学会賞を受賞し大変光栄に存じます。豊國理事長をはじめ選考委員の先生方、推薦頂いた吉川敏一前理事長、さらには研究室のスタッフ、学生、秘書の皆さんに感謝申し上げます。

これまでの研究経緯をここに記すことは、少し早いと考え、現状ならびにこれからの展望について少し書かせて頂きます。消化器内科の中でも管である「消化管」を専門にする医師として、胃がん、大腸がん、難病としての炎症性腸疾患などは大学で臨床、研究をする上で避けては通れないテーマです。胃がんの原因がヘリコバクター・ピロリ菌であることが証明され、日本では積極的なピロリ菌除菌療法が展開され、胃がん撲滅へのチャレンジが開始されました。大腸がんは女性のがん死因の1位となり、潰瘍性大腸炎、クローン病といった炎症性腸疾患も急速に増加しています。そのような状況で、ここ数年の間に「腸内フローラ」研究が画期的に進歩し、潰瘍性大腸炎に対する糞便移植療法や大腸がんに関連する細菌が報告されてきています。大腸管腔の酸素濃度は極めて低く嫌気的環境であり、水素、硫化水素、一酸化炭素の存在する「還元」環境とされています。今、この還元環境が注目され、マイクロバイオームの重要性が研究されています。一酸化炭素を産生するヘムオキシゲナーゼ研究も新たな治療標的分子となる可能性を報告してきました。次世代シーケンサーによる腸内フローラのメタゲノム解析による世界の人々との比較では、日本人腸内フローラは全く異なり、世界的に見ても特異な位置にあることが報告されています。この謎を解明していくことが、腸内環境を標的にした新たな治療法、予防法の開発につながりそうな可能性が見えてきました。

今回の学会賞を契機に酸化ストレス関連の研究を加速度的に発展させ、本学会に寄与することが私に出来る最大の恩返しと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようにお願い申し上げます。

「2016年 学術賞 を受賞して」



山田 健一（九州大学大学院薬学研究院）

この度、伝統ある日本酸化ストレス学会において学術賞を頂くことができ、大変光栄に感じております。これも、これまで研究活動においてご指導頂きました諸先生方のお陰であります。誠に有り難うございました。また、実際に研究してくれた学生には、心より感謝致します。

私は、2009年度まで磁気共鳴（特に、電子スピン共鳴法）を用いて疾患動物モデルでの酸化ストレスの検出手法を開発してきました。その後2010年より少しテーマを変え、蛍光検出プローブの開発を進めております。最近では、脂質ラジカルの検出に成功することができました。今回の受賞は、この脂質ラジカルの検出手法の開発がメインテーマであります。脂質ラジカルは、多くの疾患に関与している過酸化脂質およびそれから生成する代謝産物の基点です。我々は、その基点を検出しかつ抑制すること、即ちセラノスティクス研究ができないかと考えているところです。また一方で、脂質ラジカルの構造解析も進めております。今後、これら研究をさらに進め、脂質の酸化の側面から疾患との解明を行って行きたいと思っております。

研究者としては、まだまだ至らない点も多くあるかと思いますが、少しでも社会に貢献できるよう努力して参りたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

～ 各賞に記念の受賞楯が授与されます。 ～

学会賞・学術賞は翌年学術集会における受賞記念講演の際に授与。
学術奨励賞、八木記念学術奨励賞は個々に郵送で届けられます。







（15年度受賞者：学会賞：山本、学術賞：髙木・土肥　各氏）



平山 暁（筑波技術大学東西医学統合医療センター）

この度は伝統ある日本酸化ストレス学会学術賞を頂き，大変光栄に感じております．豊國理事長をはじめ関係の皆様，またこれまでの研究を支えて下さった皆様に深くお礼を申し上げます．

私は筑波大学腎臓内科に入局後，臨床医になって4年目頃から研究に携わるようになりました．最初の指導教官であった永瀬宗重先生らとX-band ESRを使った透析患者のラジカル消去活性測定を行ったり，当時つくばの農林研にいらっしゃった寺尾純二先生にPCOOH測定を教わりに行ったのがはじまりでした．その後ロンドン大学へ留学し，帰国後ちょうど筑波大に納入されたL-band ESR/ESRIに携わり，各種腎疾患モデル動物でのin vivo redox動態の解明を行いました．2007年に当時の筑波技術大学東西医学統合医療センター長の青柳一正先生のお取り計らいで現職に移り，医局を離れフリーな立場となりました．これまでの酸化ストレス研究を東洋医学へ応用させる仕事をはじめる一方，筑波大学長崎幸夫先生とレドックスナノ粒子研究に関与させて頂き，またやはり筑波大学の松井裕史先生と多くの仕事に携わらせて頂きながら今日に至っております．

私の研究は多くの先生方との出会いに支えられています．そして，何にも増して本学会で討論し批判を頂くことが推進力となっています．微力ではありますが，一医師として患者福祉に貢献できるような酸化ストレス研究の発展に尽力したいと決意を新たにしております．今後とも学会の皆様の厳しいご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです．

「2016年 功労賞 を受賞して」



岡田 茂（認定NPO 日本・ミャンマー医療人育成支援協会）

「観測史上初のルートを通って仙台付近に上陸」「外出注意」という台風10号警報に逆らえず、2016年度学会を欠席してしまった私へ、「2016年度学会功労賞」というサプライズが待っていたとは夢にも思いませんでした。お世話になりました学会幹事の先生方には厚くお礼申し上げます。有難うございます。また、会員皆様の前でお礼を申し上げるべきタイミングを失ったことをお詫びいたします。

1884年に鉄によるラットの発がんを見出して以来、開けても暮れても鉄を追い続けた頃を思い出します。発がん機序にフリーラジカルが関与しているのでは、との疑問を解決したくて、その前後に発足した国際SFRRに参加しました。おそらく日本人としてはかなり初期の会員だったと思います。1988年、二木鋭雄、吉川敏一先生達が中心となって立ち上げられた「日本酸化ストレス学会」の前身「日本SFRR学会」にも最初から加わり、私の学会活動の場といたしました。

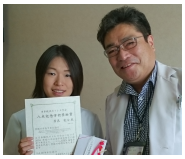
今は故人となられた中野稔先生に知己を得、1990年代の「夏の中野学校」（伊香保温泉）に毎年参加したのもこの学会が縁です。本当に楽しかった、良き思い出です。先生の名著「元素からみた生化学」（メディカルトリビューン社）は何度も読み返しております。

幸い私の関与した研究はこの学会でも脈々とした流れとなっており、また、鉄毒性に関する国際協同研究から派生したミャンマーの医療人育成の仕事は私のライフワークとなっています。この賞を機会にもうひと踏ん張りいたします。

～ 八木記念学術奨励賞とは ～

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN と称する)において，前年度第一著者として受理された論文の中で最優秀の論文に授与する。
当該年の4月1日において40歳以下で本会会員に限る。ただし，女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

「八木記念学術奨励賞 を受賞して」



齋藤 梨絵（筑波大学）

この度は、名誉ある八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じています。日本酸化ストレス学会理事長豊國伸哉先生、前理事長小澤俊彦先生、本賞を創設 された名誉理事長吉川敏一先生、第69回日本酸化ストレス学会学術集 会長赤池孝章先生をはじめ、諸先生方にお礼を申し上げます。松井裕史講師の指導の元、酸化ストレスと消化管病変について研究してまいりましたが、本受賞論文研究では青黛とよばれる漢方が、NSAIDs起因性消化管障害において活性酸素を減少させることによりミトコンドリア障害、細胞障害の抑制することを報告いたしました。この受賞を励みに今後さら に努力していきたいと思いますので御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

「2016年 学術奨励賞 を受賞して」

井田　智章　（東北大学大学院医学系研究科環境保健医学分野）

この度は、2016年日本酸化ストレス学会学術奨励賞の受賞の栄に浴し、大変光栄に存じます。理事長 豊國伸哉先生、審査を頂いた先生方、並びに日本酸化ストレス学会諸先生方に深く感謝申し上げます。また、今回の受賞の対象となりましたシステインパースルフィドの生成と生理機能解明に関する研究の遂行において、多大なるご助言、ご指導を賜りました東北大学の赤池孝章先生、大阪府立大学の居原　秀先生、並びに共同研究者の諸先生方に厚く御礼申し上げます。システインパースルフィドをはじめとした活性イオウ分子種は、その生体内レベルや生成機構が明らかになりつつあり、酸化ストレス制御やミトコンドリア機能制御において重要な役割を果たしていることが分かってきました。活性イオウ分子種のより詳細な機能解析は酸化ストレス研究の進展に大きく寄与するものと考えています。栄えある本学術奨励賞の受賞を励みとして、さらに精力的に研究に取り組み、酸化ストレス研究分野の発展に貢献できるよう、今まで以上に努力をしていく所存です。今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

佐藤　恵美子　（東北大学大学院薬学研究科　臨床薬学分野）

この度は、日本酸化ストレス学会学術奨励賞を受賞することができ、大変光栄に感じております。学会理事長の豊國伸哉先生、第69回学術集会会長の赤池孝章先生、また本学会の諸先生方に心より御礼申し上げます。また日頃よりご指導頂いております東北大学大学院医学系研究科並びに薬学研究科の先生方、共同研究者の先生方にこの場をお借りし、御礼申し上げます。

今回は国民病とも言われている慢性腎臓病患者における筋委縮に関して、酸化ストレスと代謝の変化という視点から着目して発症機序を解明したことを発表させていただきました。この病態は、発症機序に不明な点も多く治療薬も存在しないことから、治療法の確立が必要とされています。本賞受賞を励みに、これまで以上に努力して参りたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



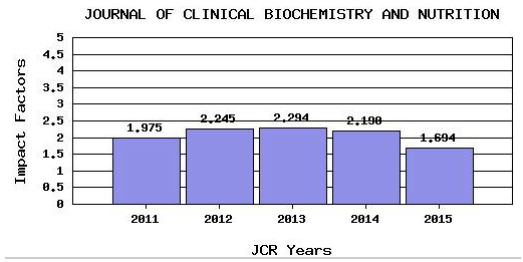
（左から　豊國理事長・佐藤・井田　各氏）

JCBN（学会オフィシャルジャーナル）情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中！
Online SubmissionのURL
http://www.editorialmanager.com/jcbn/

現在の　Impact Factor : 1,694　(2015)



JCBN随時オンライン投稿を受付中

毎年会員の投稿の若手研究者（男性　40歳以下、女性　45歳以下）の中より、前年度発表の最優秀論文に対して、八木記念学術奨励賞を授与しております。会員各位の投稿をお待ちしております。また、新役員（理事・評議員）申請には、JCBNへの投稿実績が必要ですので、是非お早めにご投稿頂けますようにご案内申し上げます。
※特別審査・掲載なども受け付けております。（別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。）

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@koto.kpu-m.ac.jp>

◇◇◇　年次学術集会案内　◇◇◇

第70回日本酸化ストレス学会学術集会



会　期：2017（平成29）年6月28日（水）～29日（木）
会　場：つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2丁目20−3
https://www.epochal.or.jp
会　長：長崎　幸夫（筑波大学数理物質系　教授）

開催のご挨拶



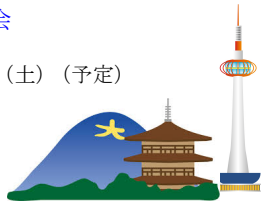
日本過酸化脂質・フリーラジカル学会と日本フリーラジカル学会が合併し、日本酸化ストレス学会が誕生した2007年以来、10回目の記念すべき学術集会（第70回大会）を茨城県、つくばの地で開催させて頂く準備を進めております。

活性酸素種や活性ガス分子の生理活性が議論され始めた1970年代から多くの研究が進められ、様々な疾病に関与することが解明されてきました。今回は「運動と酸化ストレスと健康の関係を考える」（筑波大学大森肇教授）、「慢性炎症と酸化ストレス」（筑波技術大平山暁教授）という二つのシンポジウムを計画し、酸化ストレスに関して考えてみたいと思っております。また、教育講演では英語プレゼンの仕方や良い発表資料の作り方、良い動画作成への導きなど、プレゼンテーションを魅力的にする様々な方法を紹介する講演を通して、科学者・技術者のアピール力向上に大いに役立つコツを伝授します。もちろん一般講演やポスターセッションなどで議論を盛り上げたいと思っており、さらにいろいろな企画を検討中です。これらはホームページに随時掲載いたします。
(http://www.sfrrj2017.org/home.php)

筑波山麓に広がるつくば市は古くから多様な文化が形成されてきました。1970年代の研究学園都市の建設を契機に科学万博を経ていま、最先端の科学技術拠点へとめざましい発展をとげてきています。そのつくばに2005年、つくばエクスプレスが開業し、秋葉原からわずか45分と驚くほどに便利になりました。開催予定のつくば国際会議場はつくば駅より徒歩8分の位置にございます。つくばの自然、酒、食、科学にふれながら、酸化ストレスを語る有意義な時間を過ごしていただければと思っております。演題登録は3月1日から阿4月28日を予定しております。事務局一同精一杯努力する所存でおりますので、関係各位のご支援をお願いするとともに、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

駅より徒歩8分の位置にございます。つくばの自然、酒、食、科学にふれながら、酸化ストレスを語る有意義な時間を過ごしていただければと思っております。演題登録は3月1日から阿4月28日を予定しております。事務局一同精一杯努力する所存でおりますので、関係各位のご支援をお願いするとともに、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

第71回日本酸化ストレス学会学術集会



会　期：2018（平成30）年6月8日（金）～9日（土）（予定）
会　場：国立京都国際会館（予定）
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
http://www.icckyoto.or.jp
会　長：内藤　裕二
（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科　准教授）

このたび、2018年開催予定の第71回学術集会の会長の任を執らせて頂く事となりました。京都での開催は第67回（野口当番会長）に続いてとなりますが、更なる酸化ストレス研究の発展を含むプログラムの充実はもちろんの事、新たな京都の魅力を感じて頂けるように準備を進めたいと考えております。国立京都国際会館を会場の第一候補としつつ、新たな可能性も検討しております。詳細が決まりましたら、あらためて皆様にお知らせさせて頂きます。昨年の理事会での決議に従い、本会の法人化へに向けての準備が本格化する事となりましたが、第71回を迎える頃には、新たな形として更なる発展を図る事が出来るのではないかと期待しております。会員皆様のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。酸化ストレス研究におけるトピックスや新たな情報、演者候補などございましたら、是非事務局宛にご意見をお寄せ頂けましたら幸いです。皆様の聞きたい、参加したい会を作り上げていければと考えております。

◇◇◇ 関連学会 開催案内◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

8th SFRR Asia Biennial Meeting
Date: September 9-12, 2017.
Venue: Nanyang Hotel:
Xi'an Jiaotong University Academic Center, Xi'an, China
Organizers: SFRR-China
Sponsor: Xi'an Jiaotong University
Organized by Dr. Jiankang LIU, Xi'an Jiaotong University
Advisers: Dr. Yang LIU, Dr. Chang CHEN





日本酸化ストレス学会 東海支部 第5回学術大会
日　時：2017(平成29)年2月18日(土)13:00—17:00
会　場：愛知学院大学名城公園キャンパス
キャッスルホール1101号教室
〒462-8739 名古屋市北区名城3-1-1
実行委員長：大澤俊彦(愛知学院大学心身科学部教授)
詳細：http://www.agu.ac.jp/topics/?p=12119



8th Joint Meeting of SFRR Australasia and Japan (SFRR A+J 2017)
Date: December 9th-12th, 2017
Venue: 八王子、東京
Chair : 山本順寛(東京工科大学 教授)
※ 2年に一度開催されるAustralasiaとのJoint Meetingです。若手の奨励賞も予定されてますので、是非多数の演題ご応募下さい。



19th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (hosted by SFRR-E)
Date : July 12 -15, 2018
Venue: Lisbon Conference Centre, Lisbon, Portugal
Further information: sfrri.org





シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第10回



南山 幸子 (京都府立大学 教授)

Helmut Sies博士の功績を讃えるため、鹿児島大学の馬嶋秀行教授が中心となり2016年4月に「Chasing Great Paths of Helmut "Oxidative Stress" Sies.」がABBに投稿されました。私も名前を連ねさせていただいており、Oxidative Stress (Academic Press, 1985年)という学問がSies教授によって広まり、現在もその功績は多大なものであることは皆さんご承知のことと思います。1987年にこの本の翻訳本を井上正康先生(大阪市大医学部名誉教授)が「活性酸素と疾患—分子論的背景と生物の防衛戦略」というタイトルで出版され、私も一部翻訳に携わったことが懐かしく思い出されます。最近、Sies教授とは2015年ドイツで行われたSFRR ヨーロッパに引き続き、2016年11月のサンフランシスコでのSFRRインターナショナルでもお会いし、お元気で熱心に討論されている姿に感銘を受けました。そして、多くの言葉が流行しては死語となっていますが、"Oxidative Stress"という言葉は永続的でかつ学問としてさらに深くなっている感があります。当初、酸素によって生体が制御されているということは非常にセンセーショナルなことでしたが、現在は酸素だけでなくNOをはじめとする様々なガス状分子が大いに生体のシグナル伝達に関連することも判ってきました。Sies博士の本の翻訳から早30年、この分野の研究の発展とともに自分がこんなに年を取ったのかと改めて驚いています。30年間には色々なことがありましたが、あまり成長していないのでは？と危惧しているところです。これまで私も「活性酸素と疾患」に関連する研究を進めてきましたが、「Oxidative Stress」という不動の学問をさらに発展させるために、加齢の原因である酸化ストレスと闘いつつ(笑)、あと残りの人生をSies博士のように生涯現役で走り続けたいとしみじみ感じています。

◇ SFRR International & Asia News ◇

Congratulation!
2016年に開催されました SFRR International国際会議 にて、下記方々が若手奨励賞(Young Investigator Award)が受賞されました。益々のご活躍をお祈り致します。

18th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (November 15th to 19th ,2016, San Francisco, USA)

SFRR Asia YIA (計7名)
1) SFRR ASIA TRAVEL AWARD Supported by T&F
安田大輔、大原裕紀
2) SFRR Asia Young Investigator
稲荷正吾、間嶋 淳
3) T & F Young Investigator Award
陶山遥介, 戸田道人
4) T & F Prestigious Poster Award
今井耕平



SFRR Japan YIA (5名)
本間拓二郎
Lue Sun
Mati Ur Rahman
Paras Jawaid
伊藤 紘



【オフィシャルジャーナル】 "Free Radical Research"
http://sfrrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm
会員特別価格での定期購読の受付を行っています。
ご購読希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

次回SFRR ASIA(**9th SFRR Asia Biennial Meeting**)は、以下の通り、日本での開催を予定しています。
Date:.March 28(Thu.) – 31(Sun.), 2019
Venue: Kyoto, Japan
Organizers: SFRR-Japan 詳細検討中♪
President: Prof. Shinya Toyokuni, Prof. Yuji Naito

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

新しい年を清々しくお迎えの事と思います。体調管理には益々ご留意され、良い一年となりますように、お祈り申し上げます。今年も日本酸化ストレス学会を宜しくお願い申し上げます。
アメリカのトランプ大統領就任等世界的にも様々な変革の時を迎えているようですが、本会も法人化という大きな変化に向かって、舵を取られるとのこと、会員各位の更なるご協力・ご尽力を宜しくお願い申し上げます。相も変わらずのお願いですが、異動や転居のお知らせは早めに事務局までお願いいたします。



♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

SFRR Newsletter 2017年1月号
発行:2017年1月1日

SFRR Japan Newsletter に掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (総務委員会:内藤裕二・半田 修)
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
E-mail: sfrrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: http://sfrrj.umin.jp/index.htm